

おばまじょうあと 14. 小浜城跡

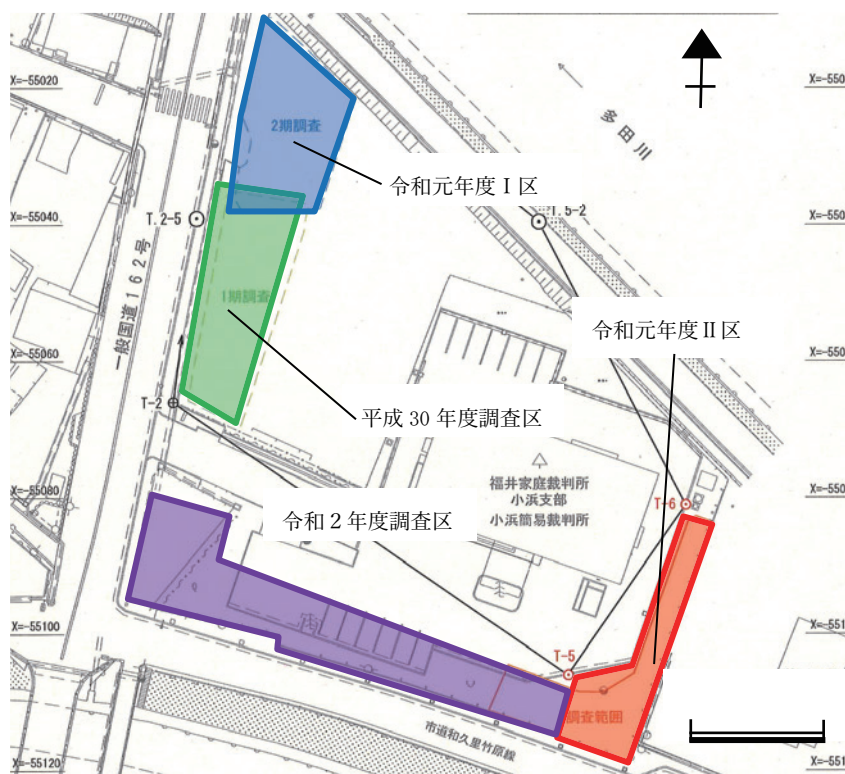
所在地：小浜市城内1丁目
 調査原因：一般国道162号道路改良事業
 調査期間：令和2年6月1日～12月28日
 調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
 調査面積：660㎡
 時代：江戸時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 小浜城は、北川・多田川と南川の河口に挟まれた三角洲に築かれた江戸時代の城です。慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦後、小浜藩初代藩主である京極高次によって、後瀬山(のちせやま)城から雲浜(うんぴん)の地に、拠点が移され築城を開始しました。小浜城は京極氏の時代には完成しませんでした。京極氏の後に小浜藩主となった酒井忠勝によって完成しました。明治維新まで酒井氏によって修理・維持されてきましたが、明治初期の火事や天守の解体などにより小浜城の大部分は失われました。現在は、本丸跡に酒井忠勝を祀る小浜神社が建っています。

このたび、国道162号改良工事に伴い記録保存を目的とした発掘調査を行いました。これ



調査区位置図 (縮尺約1/1,100)

に伴う発掘調査は平成30年度より開始しており、今年度は3年目にあたります。江戸時代後期の小浜城絵図によると、調査した場所は三ノ丸に該当し、米蔵や粃蔵および関連する役所が描かれています。

これまでの調査では、蔵の基礎の石垣と各蔵の出入口となる張出しや、蔵の造営によって破壊された石垣、三ノ丸外堀石垣などを確認しました。

令和2年度は裁判所の敷地内を調査しました。

遺構 令和2年度の調査区は、東西約65m、南北約8～14mを範囲とする。調査の都合上、調査区を2つにわけて調査しました。遺構は、三ノ丸石垣と大手門、米蔵石垣、石列を伴う建物基礎を確認しました。

三ノ丸石垣は、調査区のほぼ中央部にて確認しました。上方はすでに破壊されており、下方のみ残っていました。検出した石垣は、南北約5m、東西約15m、高さ約2mを測ります。石垣が築かれたのは外側のみであり、内側は砂で盛土するのみです。石垣は、道路を境として石の使い分けが行われており、人目に付く上部には花崗岩、人目につかない下部には花崗岩以外の石が使われていました。小浜城は川に挟まれた地盤の弱い三角洲に立地しているのにもかかわらず、石垣の石の下に桐木(石垣の石が自らの重さで沈まないようにするために、石の下に置かれた木)を確認することはできませんでした。

石垣には2ヶ所の折れた部分があり、外側に折れた部分と内側に折れた部分があります。外側に折れた部分の脇に大手門に伴う2ヶ所の礎石と石列を確認しました。礎石と石列は、いずれも花崗岩で、矢穴痕を認めることから、石垣に用いる石を使ったものと考えています。なお、石列の石には墨で文字が書かれていました。何と書かれているのかは不明であり、今後、調べる必要があります。



三ノ丸石垣と大手門



大手門の墨書



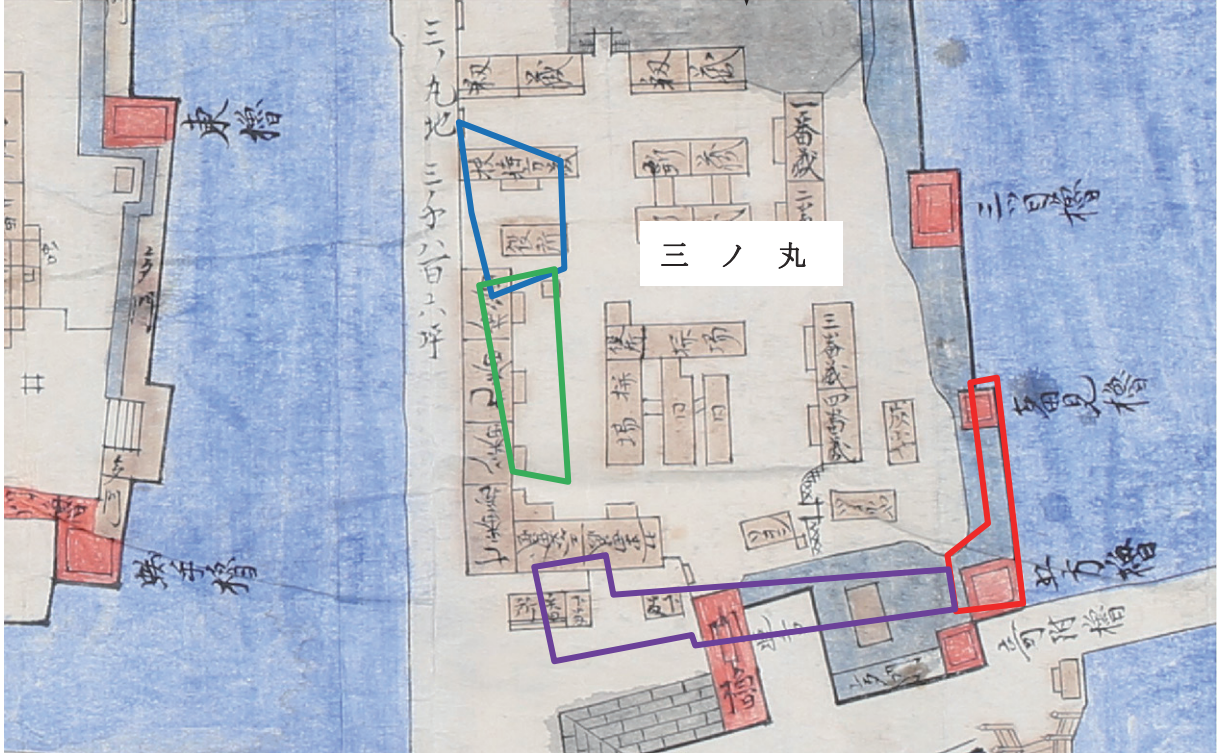
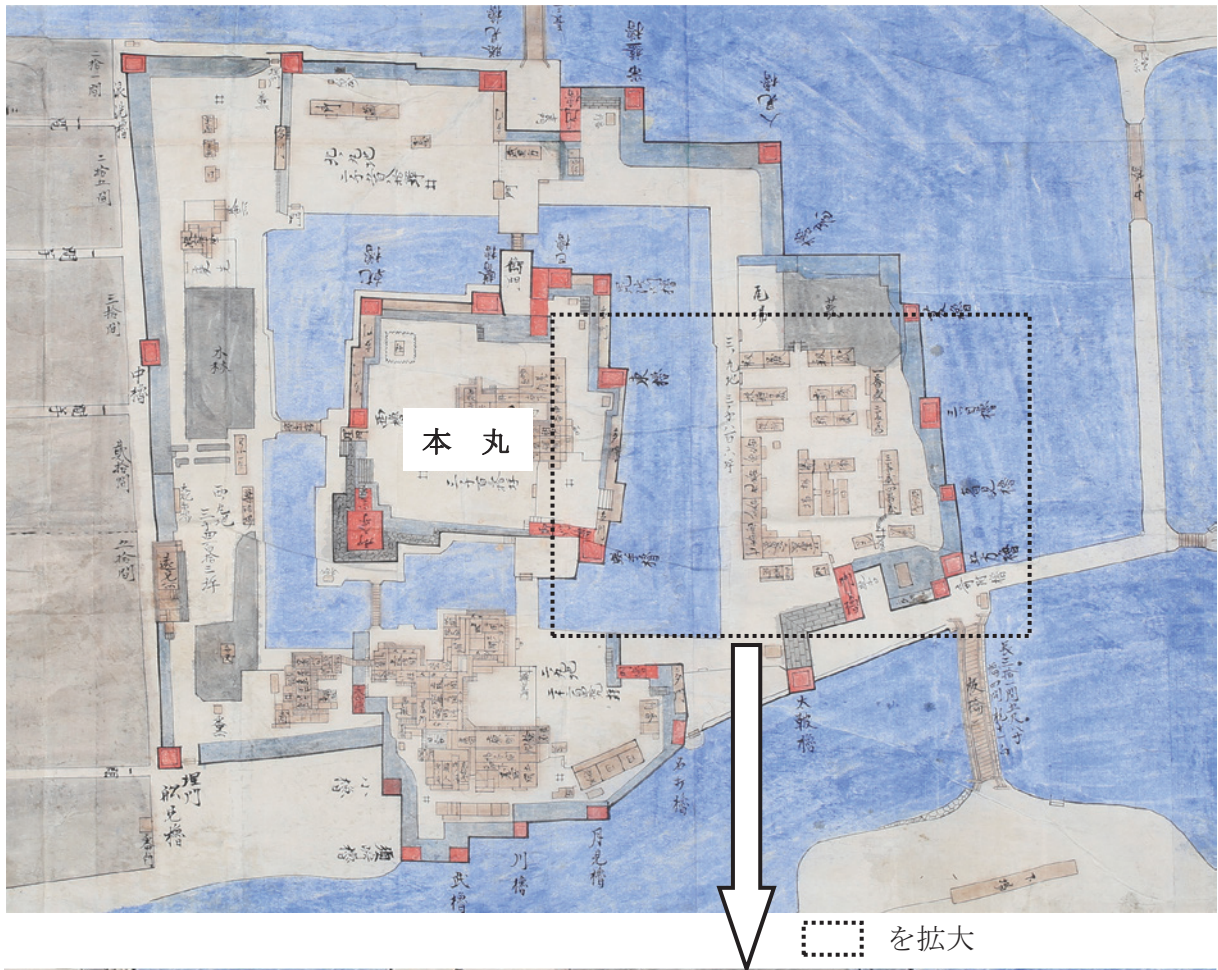
三ノ丸石垣



石垣隅角部



三ノ丸石垣立面 (オルソ画像)



※ 調査範囲は調査区位置図と対応させている。

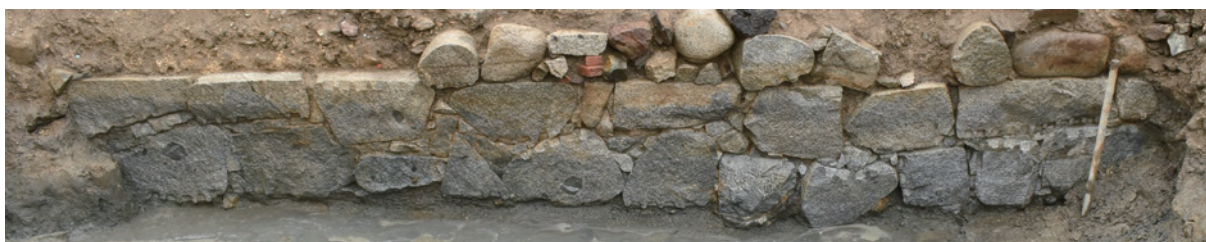
小浜城絵図（一部改変）福井県立若狭歴史博物館所蔵

米蔵石垣は、調査区の北端にて確認しました。東西約7m、高さ約1mを測ります。江戸時代の石垣は2段積みされています。上は明治時代に積み直されていますが、江戸時代の石垣は良く残っていました。石垣のほとんどは、令和2年度の調査区の外に広がっており、令和3年度の調査区は、米蔵基礎部分に相当するものと思います。

石列を伴う建物基礎は、調査区の中央やや西端にて確認しました。三ノ丸石垣の近くです。2方向の石列で挟まれた部分に砂と粘土で盛土されています。東西約3m、南北約2mを測ります。礎石と思われる石も1ヶ所確認しました。使われている石のほとんどは花崗岩です。明治時代に手が加えられた部分には、花崗岩以外の石が使われています。

絵図に該当する場所に建物が描かれており、番所の建物の基礎と考えています。

三ノ丸石垣と大手門は京極氏期、米蔵石垣と石列を伴う建物基礎は酒井氏期のものと考えています。



米蔵石垣



石列を伴う建物基礎



小浜城跡遠景

遺物 遺物は江戸時代のものが大半で、瓦と陶磁器が出土しました。瓦が多いです。瓦は、いぶし瓦と赤瓦があります。また織部や志野といった陶器が出土しています。これらの陶器は、三ノ丸石垣の造られた時代（1600年代初め）に流行していたものです。出土量は天箱で67箱あります。

まとめ 小浜城は京極家によって造られ、酒井家によって完成しています。現在、地表に残る小浜城跡の石垣は酒井家の時代のものです。発掘調査の結果、地下には京極家の時代に造られた石垣が良好に残っていることが確認でき、小浜城跡の歴史を考えるうえで、重要な成果を上げることができました。

今年度も発掘調査は引き続いて行っています。小浜城跡の姿はますます明らかになっていくことでしょう。

(中島啓太)